

## 第1章

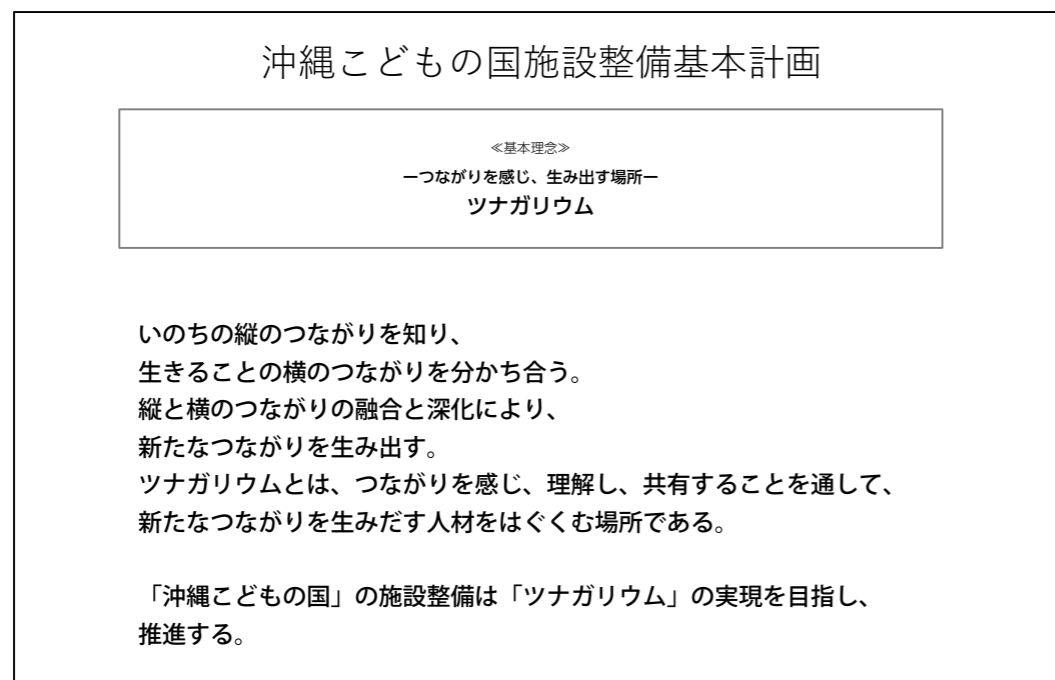
### 沖縄こどもの国施設整備計画マスタープランの位置づけと運用指針

## (1) 本業務の目的

本業務は、平成28年に策定された沖縄こどもの国施設整備基本計画の策定後に実施された各整備計画およびマーケティング、ビジュアルアイデンティティ構築の成果を受け、「沖縄こどもの国」設置の目的である「人材の育成」と、「観光施設としての魅力を備えた施設」となるべく、その基本理念を守りつつ、あらためてゴールとなる姿を共有するため、基本計画をふまえた全体施設計画とし方向性を示すものである。

## (2) 上位計画の整理

上位計画である「沖縄こどもの国施設整備基本計画策定業務報告書」（以下、基本計画）で整理された本施設の基本理念は以下のとおりである。



また、沖縄こどもの国の魅力ある世界観の創出のために、以下の整備展開の方向性が示されている。魅力的な世界観の下で、満足度の高い体験をし、充実した時間を過ごすことで、「沖縄こどもの国」の来園を忘れられない記憶となるようにする。それによりリピーターの確保を図るとともに、「沖縄こどもの国」の認知度や施設イメージの向上を図り、持続的な集客力の創出につなげる。

## ＜整備展開の方向性＞

○デザインディレクションによる統合された世界観づくり

○五感に働きかける展示演出の導入

○「沖縄こどもの国」ならではの気候や、地形、植生の活用

○世界観の発信につながる楽しい思い出の場づくり

## (3) 本業務の役割

### ①施設全体の機能を高める

- 目標入園者数に合わせて、サービス施設、ホスピタリティ施設の最適なキャパシティを設定する。
- ゾーンの区分を明確にし、園内の動線について再整理する。その動線を来園者に明確に伝えるための誘導サインの配置計画について整理する。
- 将来的な夜間の開業のために必要な、照明等の整備についての考え方を整理する。

### ②施設全体のイメージを高める

- 各ゾーンのテーマや特徴（アイデンティティ）を明確に定義づけることによって、イメージやデザインの方向性を整理する。
- 園内の景観の中で、来園者の印象に残りうる美しい景観ポイント（ビューポイント）を設定することによって、優先的な景観整備を計画する。
- 動線の中に多くのビューポイントを配置することによって、施設全体の統一された世界観とイメージを構築する。

### ③拡張区域整備の指針とする

- 既存区域のあるべき姿を整理する（マスタープラン）ことによって将来の拡張区域の整備の具体的な計画の指針とする。

### (1) 既存区域におけるマスタープランの運用指針

基本計画策定後約3年が経過し、園内の各場所で整備工事が実施され、来園者に向けたサービスの向上につながっている。その過程で、基本計画にうたわれた動物配置計画、施設整備計画について様々な変更が生じているので、今後の実施計画策定時には、それらの変更を考慮し計画する必要がある。

既存区域においては、今後も事業スケジュールの工程計画にそって各エリアの整備計画を実施していくが、その際にも一貫した『ツナガリウム』の理念の構築を常に前提として検討していくことで、県内外からの来園者を誘客し、支持される施設の実現を目指すものとする。既存区域の整備完了時の年間目標入園者数は、基本計画で算出したとおり80万人とする。

今後の整備に関する計画、設計、製作、施工、実行については多くの関係者が携わることになり、皆が共通の方針を強く意識しながら、方針に沿ったかたちで業務を実施していく必要がある。

それらの関係者に整備方針を正確に伝えるためのツールとして、基本計画、デザインガイドライン、ソフト関連実施計画、本業務の成果品であるマスタープランの4つの成果物の運用方法を整理する。

#### 1) 基本計画

- 本施設の基本理念、基本方針を整理したものである。施設のありようや考え方については、この基本計画をベースに考えることを条件とする。ただし、施設の具体的な整備に関する計画内容（例えば配置、規模等）については、現状の進捗内容、最新の計画内容に合わせて、調整をはかる必要がある。

#### 2) デザインガイドライン

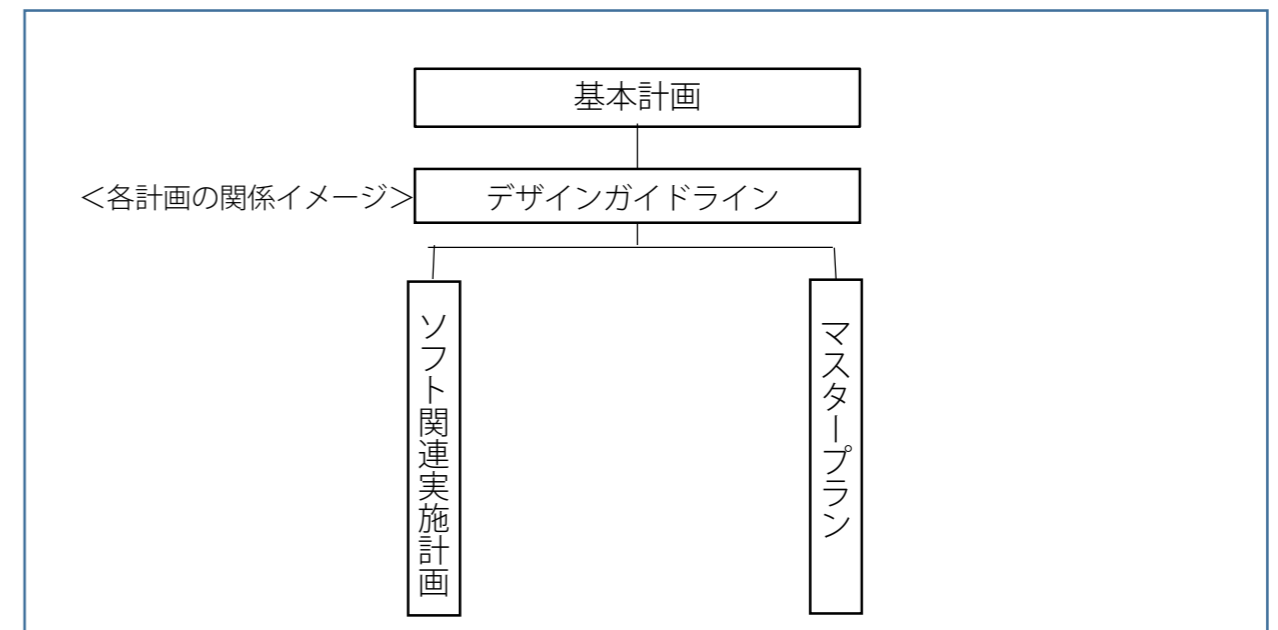
- ツナガリウムの理念を具現化し、統一された世界観を作り上げるためのデザインのルールに関して整理したものである。
- 今後、施設の様々なデザインに関わる関係者が、それぞれの立場でクリエイティブ力を発揮しながら、施設としての統一性とインパクトのあるゴールに着地するようナビゲートする役割を担う。

#### 3) ソフト関連実施計画

- 基本計画をベースに、①マーケティング計画、②施設活用計画、③情報発信メディア計画について、ソフトによる施設整備を目的とした整理を行った。この内容をデザインガイドラインによって導かれるハードの整備と連携させて、日本一ユニークな施設を実現するための仕組みを明示している。
- ソフト計画の中でも、今後の集客手法の中でも重要な、夜のイベントを中心とした運営手法、学校団体、MICEの誘致等については具体的な方法の検討を進めている。

#### 4) マスタープラン

- 上記の基本計画をベースにしながらも、プロジェクト全体の進捗の中で変化してきた内容については、最新の状況を反映したマスタープランで整理された内容をもとに実施計画を構築していく。
- 特にマスタープランに整理された機能性を高めるための方法と、イメージを高めるための方法については、最優先すべき内容として、関係者と共有する。



### (2) 拡張区域におけるマスタープランの運用指針

施設全体の整備において、拡張区域は用地取得など条件の変更が伴う可能性も有する。段階的な整備を前提とする当プロジェクトは、既存区域を日本一ユニークな施設整備のプロトタイプとしながら、全園の完成を目指すものである。

拡張区域は、宿泊機能・アスレチック遊具や動物の習性や生態を体験により学ぶアクティビティを盛りこみ、加えてテーマ型飲食施設などを展開する、エンターテインメント性を高めた施設を目指していく。拡張区域の計画、設計、製作、施工、実行についても、上記4つの計画は基本計画を最上位としながら同様に運用を行うものとする。